

## 第2回福山駅前広場協議会 議事録（抜粋）

日時：2022年（令和4年）1月25日（火）10時～12時

場所：福山市役所6階60会議室（オンライン開催）

## ＜委員の意見＞

## ●福山市商店街振興組合連合会

事務局より、駅前広場の素案について伺ったが、素案をみせてもらう前に第1回目の協議会の時にも伝えたが、駅前広場は全面的に広場としての機能を生かしたものにしたいと思っている。東と西に交通の機能をとると示されているが、全面的に広場機能をそこに配置することによって、北側に福山城があり、南側に市民の集う広場があるということが、福山の都市ブランドとなるのではないかと考えている。この素案を見た時に、駅前大通りを縮小するという事は、あまり考えていなかった。戦後復興の時に福山の駅前大通りは、かなり広い幅をとって、南北に一直線に設置するというのが特徴であった。駅前の広場を優先的に作ることで、バスの通過や待機場をどこに持っていかという問題があると思っていた。私案でいうと、福山市役所の北側にもっていくか、エフピコRiMの東側など、少し距離は離れるが、そうした場所が考えられると思っていた。駅前通りを狭めていくということを提案されているが、広場の真ん中にバスを通すという考え方を改めて、駅前広場の全体を広場として使うほうが良いと感じた。遺構を再現することも前提として考えることには賛成である。伏見町には築切が残っていることも確認されているし、入船町の入川が入ったところに石垣が出てきたのも見学会等を開いて認められている。入川を復活するという事になれば、伏見町の築切も大事になってくると思う。広場と道をつなぐという意味においては、さんすてと伏見町の間にある伏見町から三吉町へとつながる道や天満屋から東方向への伏見町・宝町・三吉町の動線、北浜の通りを生かしていくということを考えると、北浜の通りに親水空間を伴った道路設計を考えていけば良いのではないかと考える。駅前広場でイベントなどの様々なことができることは市民にとって大事な事。例としては、富山市が設置している、賑わいの場「グランドプラザ」というものがある。富山は地域柄、雪が降るため、上にずっとガラスの屋根がかかっている。福山は天候が良好なので、広場として使っていけば良いと思った。

## ●渡邊一成教授

素案のまとめ、ありがとうございました。大変分かりやすくまとめられており、言葉だけの整理ではなく、空間のイメージに落とし込んだことで議論がしやすくなったと思っている。これから基本方針を詰めていく段階で、配置計画の議論がスタートすることになるかと思うが、我々が考慮すべき点を共有することが大事だと思う。広場も大事だが、交通事

業者さんにとっては交通結節点の機能が大事になってくる。どういうことに考慮すべきかということを出し尽くしたうえで議論を進めていくべきだと思っている。そこで個人的に5つ、重要だと思う点を述べさせていただきたい。1点目。こういった議論をすると今現在のことを考えてしまいがちだが、広場は5年先、10年先にオープンするものだと思うので、5年、10年先を見据えた議論をすべき。どうしても今の不満・要望を考えてしまうと、5年先、10年先に高齢化が進んだり、IT社会が進展したりすることで、その中で解決できることがあるだろうから、先を見据えたうえでの議論がまず大事になってくる。2点目。自転車の扱い。福山は雨が少なく平らな市街地なため、非常に自転車利用のしやすいまちだと思う。日本で一番自転車が普及しても良い街だと思うが、そうではないことが残念なところ。駅前広場の空間配置の中で、自転車どうするかという点についてかなり議論になりそう。では、車や自転車の流動をどう考えるかということが重要。3点目。史跡の取り扱い。史跡を残すことは言うまでもなく大事だが、史跡を残すことを目的にしてはいけない。史跡を残す意味合いが何かということをしかりと皆で共有すべき。知り合いの社会心理学の先生が、「人の記憶はものも見て思い出す」と仰っていた。つまり福山城を見ることで、現在の福山の礎を築いたシンボルであることが分かる。そういった意味合いを含めて、史跡を取り扱うべき。先ほどの戦災復興の話もあったが、戦災復興のシンボルロードである駅前の通りも大事だが、広い空間を取ったということで、20世紀は車が通ればよいが、果たしてこれからの時代に車中心の大通りでいいのかということ、私は半分、公園や広場空間にしていくということがこれからの在り方ではないかと思う。先人たちのまちづくりや熱意を我々がどう引き継いでいくのかということを考えて、史跡や戦災復興を捉えるべきだと思う。4点目。駅前広場と周辺への波及は不可欠。駅前広場は作ることが目的ではなく、そこで新しい価値を生み出すことが目的。駅前広場の整備が周辺へ波及することは大事だが、周辺だけではなく、市民に対して色々な波及効果を生み出すことも大事。例えば、岡山市では、一日バス・路面電車の運賃を無料にする日を作って、乗り放題にするという新しい取組をする中で、公共交通に対する価値感を変えていく取組をしていると交通事業者さんに聞いた。5点目。新しい取組を実験的にやってみるということが大事。これまでもオープンストリート福山のように歩道空間を有効に使う実験も行われてきている。公共空間の利用実験や交通の実験などいろんな実験にチャレンジしてみる。例えば、駅前大通りの半分を公園にしてみたらどういう価値が生まれるかということを実験し、みんなで体験してみる。今回、駅前広場を作るタイミングで、そのような取組を行うべき。つまり、駅前広場は作ることが目的ではなく、作るタイミングで、皆で価値を生み出すことが大事だと思っている。この駅前広場の整備がそのような取組になれば良いと思う。

#### ●三之丸町町内会

資料の25～27頁について意見を述べさせていただきたい。25頁については、駅舎

との結節点を東西に広げ、広がった結節箇所にはバスやタクシーの乗降場を配置すると示されている。そして駅前大通りの道幅を狭くすることで、新たに生まれたスペースに新たにバスやタクシーの待機場を設置するということについては、前向きに賛成していきたいと思っている。26頁についての立体利用の条件については、駅から外に出る段階で、ペDESTリアンデッキで二重構造になると動線が上下することから、ペDESTリアンデッキに対して否定的な整理になっているが、昔は繊維ビルと天満屋の間に陸橋がかかっていた。その上から福山城を良く見ることができた。今は新幹線の上りホームからしか見られない。一般の人はお城を眺めることができないという状況になっている。例えば、アイネスから天満屋の方向に陸橋をつくることでお城が良く見えるようになるのではないか。ですから、デッキを否定する必要はないと思う。今後、伏見町の再開発がどういう形で進むかは分からないが、駅前空間を考える時には、伏見町のまちづくりをどうするかということ議論にのせていくべきだと思う。そこから入船・入川、あるいは北浜通り、本通りという動線につながっていくだろうと思うし、バスの動線にもつながっていくと思う。従って、アイネスと天満屋の間にデッキがあっても良いと思う。27頁について、福山城の外堀遺構やそれに関する歴史資源を大事にしていきたいということで、市も大変留意されていることはよく分かった。しかし、今回の内容では利用方法の検討が何もなされていない。以前の試掘で出てきた舟入遺構は文化的に価値があるもの。ちょうど石垣のモニュメントがある場所に二重櫓があった。これを再建してもらいたい。福山城につながるところに二重櫓が出現すれば、福山市民にとってもお城に対しての誇りが持てるのではないか。モニュメントとしても非常に有効だと思う。ぜひとも二重櫓を検討していただきたい。最後に、駅の西に向かう一般車の交通だが、将来的にはこれを止めて西や国道2号へどう動線を作っていくかということだが、西側の道は狭いところが多い。これをどうつなげていくかということについては、三之丸町の住民としては関心があるところ。この検討をしっかりと行ってもらいたい。

#### ●福山商工会議所

素案については、環境空間がこれまでよりもかなり広くとられている。先ほど、渡邊先生の話にもあったように、私どもが中心となって2017年度から駅前の歩道空間の活用社会実験をこれまでに6回やってきている。来街者からのアンケートを見ても、この駅前の歩道空間を活用した色々な取組や、憩いの空間についてのニーズは非常に高いということは分かっている。素案で示された環境空間の配置の仕方は、これまでの結果にフィットしていると思うことから、賛成の立場である。また、交通事業者の協力を得る必要はあると思うが、渡邊先生の話にもあった様に、環境空間を広げてみるという社会実験をすることについても賛成の立場になろうかと思う。事務局から全体を俯瞰して考えてもらいたいと説明があった。その観点から言うと、例えば、東側の本通りや船町などの商店街、西側のエフピコRIMなどの周辺エリアへの回遊性がこの案からどのように波及していくの

かを示していくべきだと思う。経済界独自のアンケートの結果では、経済界が駅前に来る頻度は、出張等があるため、一般市民の方よりも多い。今回の素案では送迎機能がどうなるのかが見えにくい。地下の送迎場がどうなるのか、北口の送迎場も明示されていない。西の送迎場に送迎機能が配置されているがどの程度なのか分からない。素案では伏見町側へバスを配置するようになっているが、市道上を送迎場として使う一般車も多い。送迎機能をもう少し分かりやすく整理してもらいたい。

#### ●福山市自治会連合会

色々と検討いただきありがとうございます。先ほど、渡邊先生の話の中で、自転車の道路整備をどうすべきかとの発言があった。福山は昔から自転車の活用が多いところ。今後、高齢化に伴う自動車の免許返納が増えてくれば、自転車やアシスト自転車などの利用が増えてくるだろう。福山駅前からポートプラザ、緑町といったところの行き来を考えた場合、自転車は非常に便利だと思う。そうした状況で、福山の自転車道路の整備を考えた時、福山の地域特性を生かすためには、自転車に特化したまちづくりをしても良いのではないかと思う。特にこれからの高齢者にしてみれば、自転車を利用できる範囲が広がれば、ありがたいことだと思う。最近では景観の良いところではサイクリングロードとって評価されるが、街中でも安全かつ楽しい道が出来れば良いのではないかと思う。

#### ●広島県土木建築局

地域政策局と土木建築局で調整した県の意見として発言させていただく。28頁の各機能の配置計画案についてご意見を述べさせていただく。備後圏域の中心都市、中核都市の発展をけん引していく地区が福山駅周辺だと考えている。この福山駅前広場を周辺エリアや都市全体の活性化へつなげていくためには、広域的な集客を図ると同時に、すでに駅やさんすてを利用されている方々が、駅周辺へと回遊し、駅周辺での滞在時間を延ばしていくことで、駅周辺エリアの回遊の拠点となり、公共交通の利用しやすい駅前広場になるのではないかと考えている。その中で、今回の配置計画の素案では、駅やさんすてからJR南北へ向けての複数の接点が検討されており、回遊性の向上には有効ではないかと考えている。一方で、バスの乗降場が駅前から伏見町の北側まで伸びており、反対側の三之丸町地区からはやや遠くなることで、駅や公共交通利用のための効率的な動線の確保や、バスと歩行者などの交錯箇所での交通処理、また、伏見町北側に通り抜けた後のバスの旋回や待機場までの走行ルートなどについても十分な検討が必要ではないかと考えている。いずれにしても、現状から課題を踏まえた大幅な配置計画の見直しとなっており、担当部局の意気込み、強い積極性を感じられる案だと思う。引き続き、バスが走行する沿道エリアの合意形成も含めて、精力的な検討をお願いしたいと思う。

#### ●福山市身体障害者団体連合会

以前も話をさせてもらったが、自転車は歩道を通ることで、現状では危険な状態だと感じている。今後、歩行者と自転車の分離をどうするのか検討してもらいたい。歩行障害の方など様々な障害を持つ方がいることを考えると、一次交通から二次交通への接続距離をできるだけ短くするように考えてもらいたい。駅前広場の面積の問題もあるので、無理やり駅前でなくてはならないということはないが、できる限り接続距離を短くしてもらいたい。確かに伏見町と三之丸町との接続が難しいと感じている。ただ、路線バスが南の方面へ行くとなるとバスの動線がどうなるのか。もう少し皆様の意見を聞きながら推移を確認していきたいと思っている。

#### ●伏見町町内会

素案の中の41～44頁について意見を述べたい。広場自体については一体で活用できるレイアウトに出来れば良いと思っはいるが、駅とのアクセスやバスやタクシーの交通の問題を考えるとこういった案が出てくるかなと思っはいる。しかし、いずれの案も、域内に住んでいる者としては、伏見町周辺の交通量が現状と比較にならないくらい、増えるのではないかと懸念している。現状でも伏見町内の中の道路は、駅の送迎の方の抜け道になっていたり、タクシーが信号を避けて通り抜けをしたり、かなり交通量が多い。この計画だと、交通量が現状と比較にならないほど、増えるのではないかと思う。現状、歩車分離が出来てない状況で、一般車やバス、タクシーのルートがどうなるのか、交通への対策をしっかりと考えていただきたい。

#### ●株式会社築切家守舎

今の伏見町町内会の話も踏まえて、意見を述べさせていただきます。2～3年前ほど前に作られたビジョンの絵では、駅前広場が全面広場になっていて、良い案だと思っはいた。ただ、交通結節点という観点では、バスやタクシーもある程度乗り入れないといけな。今回の素案はその両方を踏まえた良い案になっていると思っはった。問題は自家用車だと思っはう。先ほど伏見町町内会の話にあったように伏見町の中の問題もあるだろうし、三之丸町から西への交通の問題もあると思っはうので、これらを今後どう整理していくか。歩行者や自転車、自家用車を分離し、福山駅前を歩きやすいまちにできれば良いと思っはうので、今後、議論をしながら構築していただきたい。もう一つは、三之丸町や伏見町に面している広場と周辺との連携のこと。三之丸町だとキャスパ跡地との連携や伏見町だと広場と面している部分との連携が大事だと思っはう。今後、伏見町がまちづくりを進める中で、伏見町の地権者やテナント等利用されている方などと意見交換をしながら、伏見町から広場のアイデアを提案できるような場ができればと思っはっているので、よろしくお願ひしたい。広場の運営のあり方に関しても、新しい時代に沿った、民間が絡んでいけるような運営のあり方を考えていただきたい。駅前広場と伏見町や三之丸町との連携を考えながら、計画を検討していただきたい。

#### ●福山青年会議所

この資料を見て、大変楽しく、ワクワクした。今回、人間はつくづく強欲な生き物だと感じた。駅から降りたら、すぐに次の交通に乗り継ぎたいし、それでも時間があれば、カフェでお茶したいなど、色々な人の色々な意見を満たす福山駅前でなければならない。誇りになれる場所であることと、広島県の東の玄関口ということは忘れてはいけないと感じた。様々な世代の方々が集える場にしないといけないという視点も忘れてはいけない。現状では、高校生や中学生が多く利用しているが集える場所がない。今後のまちづくりにはその視点も欠かせないものだと思う。バスの乗降場が伏見町側に配置されるのは興味深いですが、市民感覚では狭すぎるのではないかと思う。伏見町全体が駅前広場と一体となって考えていくべきだと思う。

#### ●広島県東部観光推進協議会

資料には皆さんのそれぞれの想いが十分に入っていると思う。駅前広場で何がしたいかということを知るアンケートがあったと伺ったが、ショッピングや飲食がしたいという意見が上位に挙がっていた。それを考えた時に、駅前辺りに交通の機能を持つてくる必要性が本当にあるのかと感じた。東西の遮断の話もあったが、東西南北で行き来しやすい動線を考えることが大事だろう。福山城築城400年で売り出しているのも、もっと東西南北の移動がスムーズにいくと良い。他県から来街者が来られた時に分かりやすいような素敵な空間にしてほしい。駅前広場は広々とした空間であってほしいということを非常に感じた。

#### ●ひろぎんエリアデザイン株式会社

駅前の交通結節機能を維持し、広場の面積を広く確保しながら交通需要の変化に柔軟な対応が可能な配置となっていると思う。また、駅前大通りを交通需要に応じて狭めるという変化への対応や空間の有効活用についても考えられた案であり、これまでのみなさまからの具体的な項目や提案については、それぞれごもっともだと思う。しかし最終的にめざすのは、福山駅前再生ビジョンで示された駅前広場の絵だろう。交通結節点であるため、現時点ではいかに交通の利便性を高めるかを考えた現実的な案となっているが、歩行者を中心とする発想や観点はぶれないように検討していただきたい。一度に全てを実現することは難しいと思うので、今後、どういう段階を踏んでめざしていくのか、そのステップを示して市民の理解をいただく必要があるとは思っている。福山市民の誇りや愛着をもってもらうためには、独自性のある広場をめざしていくべきで、思い切ったチャレンジをして頂きたい。広場空間を北口広場とも連携させるために、福山城公園のパークマネジメントや周辺施設等と一体的に運営をしていくことも考えられる。連携することで北口との一体感、回遊性を高めることができると思うので、駅前広場も城郭の一部だという見せ方も必

要ではないか。福山駅前広場が歩行者中心の空間となり、日本中に、また世界に発信されるような場となってほしい。我々もそのためのお手伝いができればと考えている。

#### ●福山市バス交通利用促進協議会

バス側の観点で話をさせてもらおう。この提案の中で、私どもが不安になるのは、福山駅とタクシーやバスとの接続部分である。一般的に大きな都市に関しては、駅から出た時にバスやタクシーが見える安心感が必要になってくると思う。ヘビーユーザーの方にとっては問題ないが、一般的には、観光などで初めて来られて方にとっては目の前にバスやタクシーが見えないというのは不安だと思う。そういった面では見えやすいことは大事。10年後には、バスがコンパクト化していたり自動運転になって、もっと利用しやすくなっているのか分からないが、やはり待つお客様に対して、今の空間をうまく使って魅力のあるまちづくりをしていく必要があると思う。そのために今後も議論を重ねて、独創性をもった福山らしいまちづくりをやっていきたいと思う。

#### ●広島県バス協会

バス会社としては、利用者みなさまの安全と利便性が第一だと考えている。その中で、配置計画の素案を示して頂いたが、検討事項の5番にバスやタクシーの走行ルートや旋回場所・待機場所を検討しますとあるが、旋回場所を具体的にお示しいたっていないので、そこはバス会社として気になるところです。バス会社としては南方面から入って南方面へ出ていくことを考えていただきたい。周辺の道路については、少しずつでも改善できるところから改善していくべきではないかと思う。

#### ●佐々木伸子准教授

ワクワクする案が出てきて、大変うれしく思っています。今の時代、忙しくて乗り換えの効率や便利さを追いかけている中で、都会みたいに機能性だけを追いかけるのではなく、将来を見据えた形で柔軟に対応していける核のようなプランが出てきたと感じている。駅前広場のことなので、駅周辺のことを話題の中心になっているが、バスやタクシー、鉄道の交通網が整理されることによって、広い福山の郊外に住んでいる人たちが、中心部に訪れることになる。そして駅前で、分刻みではなく、ゆったりと過ごせる広場機能が上手く備わっている。街中や商業の人だけではなく、福山全域で考えた周辺の人が集まってくるような計画になっていると思う。ここからは詳細な計画になってくる。歩行者や一般送迎、そして広場でどうくつろぐかなど、そこに福山のオリジナリティを出していくべきだと思う。共通目標である部分は今回のこの素案の中で共有できたと思う。ここから先の詳細計画を詰めていく、質を高め、福山らしさを出していくことに労力をかけていくことがここから先の作業だと思う。

●西村浩

福山青年会議所からあった、ワクワクするというご意見、これが大事だと思っている。社会の情勢の変化によって今の駅前広場を作った時代から価値観が180度変わってきている中で、これからの未来を見据えた新しい整備というのは、ワクワクしたり、新しい時代が始まる期待感のようなものを、メッセージとして福山市から発しないとなかなか浮上出来ないと思う。福山市や交通事業者さんが分科会などで一緒になって頭を悩ませながら、駅前大通りや周辺のまちも含めたこの大胆な案を考えられたことでこれからの福山市が非常に楽しみになってきたと思う。駅前広場の環境空間を増やしていくことを考える時に、駅前広場は国道2号までと考える方が良いと思う。半分車線を減らして、特に駅前への交差点がコンパクトになって交通処理が非常にしやすくなるということが大きなポイントだと思っている。今は、待機場が駅前大通りの南側に配置されているが、今後、民地も含めてもっと便利な待機場の場所や交通事業者さんにとっても良い場所を継続して探していく方が良いと思う。駅前広場が国道2号までつながる方が明快だと思う。そのために、バス事業者さんからも旋回や待機場をどうするかという話が出ているが、例えば、30頁を見ると、バスが相互通行するとしたら、どこかで旋回しないといけないという課題が出ている。今まで伏見町でリノベーションまちづくりをしていて、伏見町は歴史を感じられ、伏見町ならではの雰囲気が残る素晴らしいまちだと思っているが、建物の老朽化もあるし、これからもリノベーションだけでいけるかということとそうでもないと思う。民間の土地なので簡単には言えないが、一部、バスの旋回スペースやバスターミナルのようなものが計画されるということも可能性としたらあるのではないかと思う。あとは、駐車場の問題もある。大きな集約駐車場をつくることで、もっとこのまちに来やすくすることでも大事だと思う。伏見町が今後どうしていくかということを考えるきっかけになれば良いと思う。もう一つは自家用車の送迎やアクセスをどうするかという話がある。課題にも書いてあるが、地下がポイントになるだろう。既存の地下駐車場がもう少し拡張されて、地下送迎場に結節できれば、今の駅前広場内の地下への斜路が不要になって、そこが広場として使えるようになるのではと考えている。ただ、コストなどの課題の検討や遺構をどのように活用していくかという話と連動させながら考えていく必要がある。もう少し地下を使っていくことを考えれば、交通処理をスムーズにできるアイデアが出てくるのではないか。総論としてはワクワクするけど、それぞれ課題はあると思う。これから基本方針や基本計画に進んでいく中で、課題を検証しながら進めていくことが大事になってくると思う。実証実験で確かめながらやっていくというプロセスを踏むことが大事。駅前大通りの半分を車を止めてみることもやってみれば良いと思う。皆さんの意見や市民アンケートの意見を踏まえながら実証実験をやっていくことになると思うが、誰が主体でやっていくのかということが大事で、まさに、この協議会組織が駅前広場の部分に大きくかかわるメンバーであるので、この協議会組織自体が主体となって、実験をやって、また協議をして、市民の方々に知ってもらいながら進めていくという事業主体になっていく方が、今後協議

しやすいのではないかと思う。特に交通事業者さんにとっては、大きく関わってくると思うが、これから高齢化が進んでいくと、市民全員で応援しながら、バスが存続されて、活用されていく流れにしていかないといけない。公共交通の利用実験も一緒にやりながら、これからの新しい時代にふさわしい駅前広場を完成させて、運用していくところまでをこの協議会で見届けていく流れができると良い。そうすることで市民の皆さんにも納得頂けて、喜んでいただけるものになっていくのではないかと思う。

●広島県タクシー協会東部支部

我々、二次交通の固定した考え方をどのように取っ払っていかということを考えていないと新しい発想が出てこないと思っている。5年後、10年後先の考え方を見据えたうえで、新たなまちづくりをしていくということ。ストレスフリーなまちづくりや暮らすように過ごせる駅前の環境を作り上げていくためには、タクシーやバスの待機場が駅前に最低限何台あればいいのかということを考えながら、今後、MaaSやサブスク、カーボンニュートラルなど、急激に状況が変化している中で、二次交通もこの1年2年で変わってくるのではないかと思っている。福山全体を見据えながら、コロナ禍で観光だけ、商業だけというまちでは人が集まってこない。観光と商業が一体となったまちづくりを考えながら、そこに二次交通をどう配置していくかを考えていく必要がある。今後、高齢化社会が進んでいく中で、必ず二次交通は必要になってくる。そこにストレスのない環境をつくることや伏見町全体をウォークアブルなまちにしていくために、今までにない発想や考え方が必要だろう。福山市だけでなく、周辺の6市2町も踏まえたうえで、タクシー乗り場とバス乗り場の位置づけを考えていくことも良いと思う。色々な意見がある中で、まとめていくのは非常に難しいと思うが、できる限り、我々二次交通も、まちと観光客の皆さんと協力できる体制をとっていきたいと考えている。

●清水座長

その他に何かありますか、事務局から何か補足はありますか。

●福山駅周辺再生推進部長

事務局から一言補足させていただきます。商店街振興組合連合会から駅前大通りは戦後復興の象徴であるとのご意見をいただきました。駅前大通りは戦後復興、福山の発展に貢献し、これまでの戦後復興の礎になったことは間違いないと思っている。また、同時に市民の生活の質の向上につながってきたと思っている。これは昭和20年代の都市計画決定にあったものだが、先人の賢明なる判断によって、実現したものだと考えている。一方で渡邊先生やほかの委員のみなさまからもご意見をいただいているとおおり、駅周辺の最適化を検討するにあたっては、将来を見据えながら検討を進めなければならないご発言を頂戴しているところだが、福山の発展や福山の市民の生活の質の向上といったところを十分に

踏まえながら、先人の志を引き継ぎながら取り組んでいきたいと考えている。今後もみなさまの意見を頂戴しながら、事務局として進めていきたいと考えている。

#### ●清水座長

最後に座長としての感想を述べたいと思う。事務局がこれまでにないスピード感で、意見の集約化を図っていただいたこと、素案として図で示したことが、非常に重要なことだと感じた。この図は今後も皆様の意見を取り入れてさらに精度の高いものになっていくはず。その叩き台が今日出てきたということが大変良かった。全体の最適化が今回の駅前広場の協議会のテーマだということ。駅前の空間の利用に関しては、様々な立場の方が関係しているが、今回、大きな方針として掲げることができたことは良かったと感じている。また、色々な方が発言されているように、これからは変化が非常に激しい時代となる。特に交通手段に関しては、パーソナルなものから皆が使うものも含めて、これから変革期に入ってくるのではないかと思う。その中で公共交通の在り方についても大きな変化が起きるということを予測しながら進んでいかなければならないと思う。今日みなさまが活発な意見を出してくださったこと、大変ありがたいと思っている。出てきた意見は、それぞれの立場からのご意見だと思うし、それぞれ一つずつが大変大事な意見だと思う。協議会の議論で、これらの意見をどのようにしていくべきなのかということを考えながら丁寧に取り扱っていくことになると思う。今日のこの協議会を視聴されている方がいらっしゃると思うが、市民の方々に駅前広場の議論の過程をどのように伝えていくかということも極めて重要なこと。これからも、引き続き、議論の過程を広く市民に知らせていくことが大事になる。この次の段階だが、今日出た意見を事務局が議事録として作成し、各委員と共有することで、課題を認識して進めていければと思う。将来的なことという、この駅前の再編ということに、行政だけではなく民間の方が関わって、公と民が連携して進めていくプロジェクトであるということを強く感じる。今日のみなさまの意見を聞いていくと、公と民が連携していくことが今後大事になっていくのだろうと感じた。また次の機会にみなさまの活発な意見を期待しています。次回も楽しみにしております。

以上